

## 令和 8 年度第 1 回刈谷市総合教育会議 議事録

### 1 日 時

令和 8 年 6 月 23 日（火）午後 4 時 00 分 ～ 午後 4 時 45 分

### 2 場 所

刈谷市役所 701 会議室

### 3 議 題

業務量管理・健康確保措置実施計画について

### 4 出 席 者

|                    |        |
|--------------------|--------|
| 市 長                | 稲垣 武   |
| 教育委員会 教育長          | 佐野 吉則  |
| 教育委員会 委員（教育長職務代理者） | 鶴田 英孝  |
| 教育委員会 委員           | 浅井 優   |
| 教育委員会 委員           | 小川 耕示  |
| 教育委員会 委員           | 深澤 由記子 |

### 5 会議構成員以外の出席者及び事務局

|                   |        |
|-------------------|--------|
| 教育部長              | 坂東 知道  |
| 教育総務課長            | 近藤 真   |
| 教育総務課 課長補佐兼総務係長   | 溝口 香織  |
| 学校教育課長            | 田中 仁   |
| 学校教育課 指導主事        | 岡部 直樹  |
| 企画財政部長            | 伊藤 雅人  |
| 企画政策課長            | 酒井 隆   |
| 企画政策課課長補佐兼みらい共創係長 | 北洞 貴康  |
| 企画政策課 経営管理係長      | 池田 陽一郎 |
| 企画政策課 主事（書記）      | 吉田 光希  |

### 6 傍聴人

なし

## 1 市長あいさつ

皆様、こんにちは。本日は大変お忙しい中、第1回総合教育会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。昨年度は、教育大綱の策定にあたり3回にわたり総合教育会議においてご議論いただき、無事改定に至りましたことを感謝申し上げます。

はじめに、ご紹介になりますが、7月4日より歴史博物館にて「刈谷のスポーツ史」企画展を開催予定でございます。刈谷高校サッカー部の国体連覇や野球部の創設・発展の経緯などが紹介されます。

また、本日開催された刈谷市商店街連盟の総会において、中日ドラゴンズファーム誘致の話題が取り上げられ、商店街からも大きな期待が寄せられているとのことでございます。本市としても候補地として手を挙げておりますが、費用面や条件面について慎重に検討する必要がある一方で、地域活性化や交流人口の増加に貢献できる事業であることから、引き続き検討を進めてまいります。

さらに、本年9月から10月にかけてアジア大会・アジアパラ大会が開催されます。アジア大会ではサッカー競技が実施され、4日間の日程の中で男子の試合が3日間、女子の試合が1日行われる予定でございます。対戦相手については7月下旬に抽選が行われる見込みです。国際大会であることから、アジア各国より多くの来訪者が見込まれます。これに向けて、刈谷駅ではすでにシティドレッシングを完了しており、駅構内の階段部分には「A i c h i - N a g o y a」といった文言を掲出しております。また、改札を出た正面に設置されているデジタルサイネージにも、アジア大会・アジアパラ大会に関する情報を掲出しております。これらの取組により、9月・10月の開催に向けた機運醸成を図っていきたいと考えております。あわせて、子どもたちにも観戦機会を多く提供し、国際大会ならではの雰囲気や優れたアスリートの競技を実際に触れてもらいたいと考えております。

本日の議題は、「業務量管理・健康確保措置実施計画」についてです。教員の長時間勤務や業務量の増加が大きな課題となる中、教員の働き方改革および処遇改善を推進するための法改正が行われました。これに伴い、「業務量管理・健康確保措置実施計画」の策定が求められております。本日は事務局から詳細の説明を行います。委員の皆様から率直なご意見を頂戴し、今後の推進に反映していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 2 議題

業務量管理・健康確保措置実施計画について（資料1）

学校教育課長から資料について説明

市長

事務局からの説明を踏まえまして、皆様のご意見を頂戴したいと思います。まずは鶴田委員よりお願いいたします。

鶴田委員

それでは失礼いたします。本会議にあたり、文部科学省から示された「業務量管理・健康確保措置指針」の改定を受けての、本市における実施計画資料を拝見しました。

まず、教員の心身の健康を守り、持続可能な教育環境を整えるという指針の方向性については大いに賛同します。教員が生き生きと精神的なゆとりを持って教壇に立つことは、子どもたちに質の高い教育を提供するための大前提であり、重要な課題であると認識しております。また、ご提示いただきました本市の計画措置の内容自体も非常に具体的で、個別の施策も文部科学省の指針を踏まえたものになっており、特に異議はございません。ただ、私としては、この改革を進めていくにあたり、2つの懸念を抱いておりますので、お話させていただきます。

1つ目は、一律の業務削減や効率化を進めるあまり、これまで「日本型学校教育」が築いてきた、世界に誇る「良さ」というものが失われてしまうのではないかと懸念です。日本の学校教育の強みは、教員が授業だけでなく、学校行事や部活動、日常の本当にちょっとした対話を通じて、子どもの人格形成に包括的にかかわってきた点にあるのではないかと考えております。業務の切りだしや外部委託を急ぐあまり、教員と子どもたちとの心の通ったつながりやきめ細やかな見守りといった教育の本質的な価値まで失われることのないよう、慎重な取組を求めたいと考えております。

2つ目は、指針が求める「業務のアウトソーシング」の実効性に対する懸念でございます。学校の業務を外部に委託し、サポートスタッフや部活動指導員などの外部人材を活用せよという文部科学省の方針ですが、現場の自助努力だけでは限界があります。参考としていただいた、文部科学省から示された資料では、財政的な裏付けが具体的に示されておらず、また人材面でも、条件に合う適切な人材を確保すること自体が極めて困難ではないでしょうか。現実問題として、国からの明確な財政措置や人的な支援パッケージがない中で、教育委員会や学校現場に計画の策定と実行を丸投げされても、それは「絵に描いた餅」になりかねません。

教職員のウェルビーイングの確保、そしてこれからの学校教育のあり方について検討することは非常に重要なことと認識しております。この指針への対応を、単なる掛け声や義務の消化の計画で終わらせてはなりません。

本計画の実施を、本市の子どもたちの教育の質を維持してさらに高めていくための重要な投資として捉え、予算権を持つ市の担当部局と教育委員会が強く連携をして、市の強力なバックアップのもと、地域との連携をより一層推進して、実状に即した実効性のある計画を一体となって構築することを強く望みます。

市長

ありがとうございました。それでは浅井委員お願いいたします。

浅井委員

私は教育委員に就任してから6、7年が経過しておりますが、その間、学校訪問の機会を通じて、各校において会議の見直しや行事の精査、地域連携の推進など、様々な取組が進められてきたことを継続的に伺ってまいりました。しかしながら、現状として

は、時間外在校等時間が月45時間を超える教員の割合が3割程度あるという状況であり、これまでのように、取組の継続を呼びかけるだけでは、更なる削減は困難な状況になっているのではないかと思います。もし、国が掲げる数値目標の達成を本格的に目指すのであれば、一定の覚悟を持って施策を推進していく必要があるのではないかと感じています。先ほど鶴田委員からもご発言がありましており、予算を確保し、専門性を要しない業務については外部委託を進めるなどの対応も一つの方法であると考えますが、予算面や体制面の課題から、直ちに見通しを立てることが難しい現状もあるものと認識しております。その一方で、月80時間を超える時間外在校等時間に該当する教員が約1割存在しているという実態も踏まえ、教員の健康管理の観点からも、可能な限り速やかに対応を進める必要があると考えております。

こうした制約の中では、現有リソースでの活用をしながらも、これまでの「当たり前」を見直し、より抜本的かつ創意工夫を伴う業務改善を検討していく必要があるのではないかと考えております。以前、田中課長とも意見交換をさせていただいたのですが、例えば教員の業務時間の大きな要因となっている授業準備について、分担・共有化を図る方策も一案ではないかと考えております。具体的には、單元ごとに担当教員を分け、担当教員が作成した15～20分の授業を録画し、その映像を各クラスで活用することで、授業準備の負担軽減を図るという方法です。授業の前半ではその映像を活用しつつ、その間は各教員が教室を巡回し、理解が不十分な児童生徒への個別対応や学習状況の把握を行うことが可能となります。また、後半においては映像授業の内容を踏まえた補足説明を各教員が行うことで、先生方の独自性を維持しつつも負担軽減を図ったかどうかという話をさせていただきましたが、教員の立場からすれば、このやり方は大きな抵抗感のあるものであり、しかしながら、現有の人員体制の中で国が示す数値目標の達成を目指すのであれば、こうした従来の枠組みにとらわれない発想も含めて検討していかなければ、改善は難しいのではないかと感じております。

設定されている目標は非常に高い水準であり、その一方で現場の教員の負担は着実に蓄積している状況にあることから、これまで以上に踏み込んだ業務改善を進めていく必要があるのではないかと認識しています。これまで各教員が一人で抱えていたものについても、ある意味では心地よく手放していくという考え方の転換も必要ではないかと感じております。そうした発想を持って対策を講じていかないと、教員がゆとりを持って子どもたちと向き合うことができる、持続可能な学校づくりにはつながっていないのではないかと感じています。

市長

ありがとうございました。それでは小川委員お願いいたします。

小川委員

本資料において、具体的な数値目標を設定し、それに基づいて取組を進めていくという点については、大変有意義なことだと思います。企業においても、KPIを設定し、その達成に向けて行動をしていくことは基本的な考え方であり、その点は本取組において

も有効であると認識しております。一方で、現状の指標については、どちらかというに従来型、いわゆる昭和の「教員像」を前提とした内容となっている側面もあるのではないかと感じております。私自身、従来の教員像については理解しているところですが、今後求められる教員像は違うのではないのではないかと考えております。

こうした点を踏まえ、今後の方向性としては「これからの教員のあるべき姿」をより明確に示した上で、その姿に基づき、どの業務を誰が担うのかを、今回お示しいただいている三分類の枠組みに沿って、より具体的に整理していくことが重要ではないかと考えております。その上で、本資料で示されている三分類の枠組みに基づき、各業務について誰がどの役割を担うのかを、より具体的に整理して示していただき、刈谷市として財政的に対応可能な分野と、そうではない分野を整理していただくことで分かりやすい計画になるのではないかと考えております。どうしても本資料を拝見すると、昭和の先生を目指すような内容になっていると感じております。私自身、実際にそうした先生に教わってきた世代でもあります。あのような情熱だけで子どもたちを育てながら今回の数値目標を達成していくというのは、かなり難しいのではないかと感じております。そのため、切り捨てるべきところはしっかりと切り分けていただき、新しい時代における教員の目指す姿を明確に示していただく必要があるのではないかと考えております。その上で、刈谷市として「こういう教員像を実現するために、ここに予算をかけていく」ということを示しながら進めていただくことが重要であると思います。

刈谷市については様々な分野で評価が高いと伺っておりますので、そうした強みを活かしながら、「刈谷市の先生はこういう姿を目指していく」という方向性を積極的に打ち出していただくことも重要ではないかと感じております。結果についてはやってみなければ分からない部分もあるかと思いますが、進めていくことで十分に成果は期待できるのではないかと考えております。上位方針に縛られ過ぎることなく、主体的に取り組を進めていただき、市長をはじめとしたリーダーシップの下、刈谷市独自の取組として教育分野においても成果を上げていただければと考えております。

市長

ありがとうございました。それでは深澤委員お願いいたします。

深澤委員

まず、教員の業務量の管理や健康の確保につきましては、遠からず取り組むべき問題ではないかなと思います。ここ数年では、業務改善に対する意識が学校側だけでなく、周囲にも浸透され始め、長期休暇中の電話対応を行わない日の設定や、地域の方々の協力、保護者によるボランティア活動への参加などが、広がってきていると感じています。教員の心身の健康の確保が、子どもたちの教育や学校生活の質の向上につながっていると思うので、本資料で示されている基本方針や指針については、意義があるものと考えております。

一方で不明点と懸念点がいくつかありますので、申し上げます。

まず不明点として、現状の残業時間が何に起因しているのかについて、十分に把握できていない部分がございます。例えば、新任の教員が業務に慣れるまでの時間的負担が大きいことによるものなのか、あるいは主任級の教員における役割や兼務業務の内容・量が大きいことなのか、または生徒のトラブル対応に時間を要し、その結果として通常業務に影響が生じているからなのか等、様々な要因が考えられます。これらの要因はひとつではなく、複数の要素が積み重なった結果として、現在の残業時間につながっているものと推察しておりますが、こうした要因について、もう少し詳細に分析することができれば、今後の具体的な対応策やアプローチの方向性がより明確になるのではないかと感じております。

懸念点といたしまして、この実施計画については、残業時間という数値のみで判断することは難しいのではないかとということです。残業時間が減少したとしても、業務量自体が変わらなければ、結果として教員一人当たりの負担が増加することになりますし、ここ数年の状況を保護者の立場から見ても、先生方が様々な工夫を重ねておられる様子は強く感じております。そうしたこれまでの努力がある中で、現在の残業時間の実態があることを踏まえたと、本計画において令和11年度までに数値を7時間以内とするという目標設定については、相当厳しいものではないかと思えます。

もう1点の懸念点といたしましては、作業の効率化を優先することによって、子どもにどのような影響が出るのかということです。例えば、現在、学校から出されるプリント等の宿題について、保護者が丸付けを行い、翌日提出するという対応が取られているケースがありますが、担任が1クラス分の丸付けを行う時間が短縮されるという意味では、一定の負担軽減につながっているものと感じております。一方で、こうした運用においては、単に実施していることを確認して評価するご家庭もあれば、ひとつひとつ丁寧に確認を行うご家庭もあると考えられます。音読などについてもそうですが、各家庭によるばらつきのある評価を前提とした場合に、それを回収した上で学校として評価の統一性を確保できるのかという点について、一定の懸念を持っております。宿題に限らず、学校生活全体を通じて子どもを見ていただいていることから、極端に偏った評価になることは恐らくないものとは思いますが、保護者としては可能な範囲で協力したいと考えている方も多いと思われます。そのため、こうした指針について、保護者にも周知していただけるとよいのではないかと感じています。また、子育ての実感として、同じ内容であっても、保護者が伝える場合と教員が伝える場合とでは、子どもの受け止め方に大きな違いがあると感じております。意外と教員からの一言で素直に受け入れられたり、宿題に押された確認印の横に「よく頑張りました」といった一言のメッセージが添えられることで、子どもの意欲向上につながる場面も多くあると感じております。そのように、教員が善意で行っている日々の書き込みなどの仕事について、本当に必要なもの以外を削減していく形で業務の効率化を進めた場合、結果として子どもたちのコミュニケーションツールの数が減少してしまうのではないかと懸念もございます。

社会に出てから、人と人とのつながりが生活の基盤となっていると強く感じておりますので、子どもたちには人対人を学べる学校という場において、社会に出るための基礎づくりを沢山経験してほしいと思っています。業務改善そのものは必要なことだと認識

しておりますが、その一方で、教員の人間的な温かさや関わりの部分については、引き続き大切にしていきたいと思っています。

市長

ありがとうございました。それでは佐野教育長お願いいたします。

佐野教育長

先ほど説明にもありましたとおり、刈谷市においては令和3年度頃から教員の働き方改革に取り組んでおり、在校時間の管理やその短縮に向けた取組をしていきました。また、以前から国の動向を色々見聞きしながら、部活動の朝練習や活動時間の削減、行事の必要性の検討による廃止や準備期間の短縮など、段階的に業務改善を進めてきたところであり、結果として時間数については一定程度減少してきているものと感じております。

一方で、業務負担の軽減を図ることは重要ではありますが、それによって教育の質が低下することがあってはならないと考えております。そのため、両者のバランスを取りながら、時間的な余裕を確保できるよう、段階的ではありますが教員の負担軽減への取組に向けた努力をしているのが現状でございます。本計画は3年間の計画であり、また1年ごとに見直しを行うこととされております。非常に変化の激しい時代であることから、今後の状況を見通すことが難しいというのが正直なところでございますが、刈谷市立学校長会とも連携しながら、教育委員会として取り組めるところからひとつずつ計画を推進していき、必要に応じて大胆な見直しも検討していきたいと考えております。

また、市内の教員が日々、教育に情熱を持って熱心に取り組んでいることについては、重々承知しています。そうした皆様のやりがいや成長を感じながら、無駄な業務については削減していくという姿勢で、今後も業務改善を進めていきたいと考えています。引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

先日、生徒会サミットが開催され、刈谷東中学校を会場として、中学校区の小学生の代表児童が参加する形で行われました。生徒が「よい学校とは何か」というテーマを掲げて、刈谷市内の仲間と話し合い、各学校の課題についてテーマを設定しながら、積極的に意見を出し合っていました。当日は、子ども達の表情が本当に生き生きとしており、教員含む多くの大人が見守る中でも、堂々と意見を発表する姿が見られ、改めて成長を感じることができるサミットであったと思います。

また、今回は一部の保護者にも参加していただき、その様子を見ていただいたところ、自分のお子様の活動の姿に驚かれている保護者の方もお見えになり、そのような様子を見て大変嬉しく感じております。

また、刈谷市特別支援教育推進協議会が主催する合同運動会も例年実施されておりますが、今年度は対象となる児童生徒が増加したことから、3つの中学校を会場として分散開催されました。当日は、日頃の練習の成果を発揮しようと一生懸命競技に取り組む姿や、仲間を懸命に応援する姿、さらには久しぶりに会う仲間と交流する様子などが見られ、子どもたちが笑顔で活動に取り組んでいる姿を大変嬉しく感じております。

このような行事の実施にあたっては、多くのご苦勞があるものと認識しておりますが、限られた条件の中で、教員の皆様が工夫を重ね、負担軽減を図りつつも、やりがいを損なうことのないよう取り組んでいただいているものと受け止めております。

教育委員会といたしましても、今後もこうした取組を支援しながら進めていきたいと考えておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

市長

ありがとうございました。

各委員から、今回の議題についてはご理解をいただけたものと受け止めております。一方で、取組を徹底し過ぎることによって、失われてしまうものがあるのではないかといったご意見も頂戴いたしました。義務教育においては、当然のことながら一定の学力を身につけることが重要であり、それを教員が指導していくことは大きな目標の一つであると認識しております。また、教育大綱に示されているとおり、自ら考え、自ら決断する力、いわゆる「生きる力」を育んでいくことも重要であり、これは中学校段階ですべてが完成するものではないにしても、その基礎となる力を養う過程を、保護者や教員が支えていくことが必要であると考えております。

そうした観点から、本計画がどのように機能していくのかを考える中で、極端な例ではありますが、学校教育がいわゆる塾的な在り方になってしまっているといけないと思います。生徒と人として触れ合う、そういった関係性を教員には求めていきたいと感じております。

以前、幼稚園教諭をしていた方は、業務として日案、週案、月案の作成があり、毎日の計画を作成して園長に提出し、指導を受けるということを繰り返しておりました。日々の業務の中で、その準備を自宅に持ち帰ることも多く、負担が大きいのではないかと感じていたところでございます。

また、週案や月案についても、年間を通じて一定のルーティンがある中で、過去の内容を見直して活用するという方法も考えられるのではないかと感じておりましたが、実際には一から作成している状況でありました。現在の状況については承知しておりますが、授業づくりや指導計画の在り方については、改善の余地があるのではないかと感じております。

このように、業務改善についてはこれまでも取り組まれているものと認識しておりますが、業務の進め方や指導方法そのものについても見直しの対象とし、例えば計画作成の効率化など、具体的な時間短縮の手法を含めて検討していただければと考えております。現状については詳細を把握しきれていない部分もありますが、あまりに効率化を進め過ぎると、先ほど申し上げたように、学校教育がいわゆる塾的な在り方になってしまう懸念もあると感じています。

そのため、こうした点も踏まえながら、市としての強みも生かしつつ、どのような業務を外部に委託できるのかといった点も含めて、様々な観点から検討を進めていく必要があると考えております。

今後につきましては、皆様からのご意見も頂戴しながら進めていきたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。なお、本件についてご意見等がございましたらお願いいたします。

事務局（学校教育課長）

1点、先ほど深澤委員からご発言のありました残業時間の要因についてですが、様々な要素があるものと認識しています。

例えば、教材準備に多くの時間を要している場合があるほか、生徒指導や保護者対応、また、校内における担当業務として、学校行事の担当となっている場合には、その行事期間中において残業時間が増加することもあるのではないかと考えています。このように、複数の要因があるのが現状であると認識しています。

市長

現在、学校においては、私の時代は50人学級であったのに対し、現在は35人学級となっており、人数が減ったことで教員の負担も軽減されているのか、すなわち対象となる児童生徒数が減ることで業務量も減っているのかについて伺いたいと思います。

事務局（学校教育課長）

その点につきましては、従来の50人学級と比較すると、35人学級では一人ひとりに目を向けやすくなるほか、テストの採点やノートの確認といった業務においても、対象となる人数が少ない分、業務量としては一定程度軽減されているものと認識しています。

市長

今後は、AIによる採点などが進めば、児童生徒の記述についても読み取ることが可能になってくると思いますので、そうした面での負担軽減も期待されるところです。他にご意見等はよろしいでしょうか。それでは、以上をもちまして、本件については終了といたします。

### 3 その他

本年度の総合教育会議は本会議をもって終了といたします。

来年度の開催につきましては、改めてご案内申し上げます。